

『上海本』 蒐録 (5)

倉 橋 幸 彦

My Library on Shanghai in Japanese (5)

KURAHASHI Yukihiro

本書目は、先に公にした「『上海本』 蒐録 (4)」(『大阪産業大学人間環境論集 7』2008年6月30日)の続編である。

ここに採録した『上海本』(一部雑誌の特集号を含む)は、昭和12(1937)年・13(1938)年に刊行されたものである。

ただし、1937年8月28日に勃発した(第二次)上海事変に関わる書はここには収録せず、『上海事変本』については別稿に譲ることとする。

なお、I・II・III・IV各項に附した番号は、「『上海本』 蒐録 (4)」を継ぐ通し番号である。

【1937-1938】

(上海四川路215号大楼5楼)

昭和12年6月25日

I. 上海本

菊判 80頁 非売品

<1937>

[注1]: 三宅儀明は「編輯発行人」。印刷所は、東亜印刷株式会社大連支店。

[注2]: タイプ印刷

115. 上海に於ける赤・白露人情勢

[注3]: 『中通資料』は、昭和9年8月創刊。1月2回発行。

[中通資料第70号]

◆はしがき1頁/目次3頁|| 第一篇 白系ロシア人社会ト其動向; 白系ロシア人経済的發展ノ概観/第一期政治運動ノ台頭/第二期政治運

三宅儀明

中国通信社調査部

平成21年5月26日 原稿受理

大阪産業大学 人間環境学部

動ノ動向(ニコライ大公死去後ノ状勢)ノ最近ニ於ケル政治運動ノ白露人醜業婦ニ就テノウクライナ独立運動トノ関係ノ第二篇 赤系ロシア人社会ト其動向; 赤系ロシア人機関トコレヲ続ル赤化網ノ支那赤化機関ト抗日人民戦線ノソヴェトト市民ノ権利及義務ニ就テノ結語

* 「はしがき」: 「先ノ合同, 並行本部事件ヨリ今次ノ建軍功労者八將軍ノ銃殺トスターリンノ独裁ヲメグリ, 蘇聯ニハ今ヤ血ミドロナ国内闘争ガ展開サレ其結果同国ノ対支政策ニモ重大ナ支障ガ招来サレントシテ居ル, コノ同国ノ対支工作ノ本拠ガ蘇聯大使館ニアルハ言ウマデモ無イガ其外郭的組織体トシテ暗躍シテ居ル蘇聯在留民ノ状勢ハドウカ, 又祖国ヲ追ハレ一抔ノ帝制復興ノ夢ヲ抱キ乍ラ, 強化サレタ蘇聯ノ事実承認ヲセザル得ヌ, 白系ロシア人ノ現状ハドウカ, 本稿ハ之等ノ情勢ニ現地調査ヲ加ヘシモノデアルガ其性質上会員ノミニ配布スバク秘扱トセルモノデアル」。

116. 支那人・文化・風景

小田嶽夫

竹村書房(東京)

昭和12年11月20日

四六判 268頁 函版 1円20銭

◆口絵: 函版4頁; 平和塔ヨリ黄浦灘ヲ望ム・大馬路競馬場ヨリパークホテルヲ望ム・上海市政府・上海旧城湖心亭・ガーデンブリッチ畔プロートウェイビルディング・上海呉淞路・蘇州城内双

塔寺・蘇州場外靈岩山靈岩寺ノ序2頁ノ目次4頁
|| 新文化の流れ; 上海雑感ノ上海通信ノ魯迅夫人を訪れるノ新興支那の作家ノ知識階級人ノ支那の新文化面ノ上海界限; 憶ひ出の上海ノ中支の秋春ノ西湖ノ流離ノ漂亮ノ蘇州閶門外ノ上海の宿ノ支那民衆氣質ノフランス租界の一夜ノ支那人世界ノ文藝・作家; 魯迅ノ魯迅を悼むノ魯迅を偲ぶノ郁達夫ノ茅盾ノ茅盾の「大過渡期」ノ蕭軍ノ支那作家と人生的情熱ノ最近支那芸術界の報告ノ日本文学と支那 || (附録) 小説 泥河215-268

* 「序」: 「十年以前一官吏として支那に三年余在住してゐた際の経験と, 今春約一ヶ月間上海に逗留した際の見聞と, 折にふれて親しんだ現代支那文学に就ての些の知識などからこの書は出来上つてゐる。私は謂ふところの支那通でも無ければ支那研究家とも言はれ得ない。ただ傍人よりは支那にいくらか余計関心をもつ一作家であるに過ぎない。けれども私はこの拙著を一人でも多くの人に読まれることを切願する。言ふ心は、支那の現実を識ること少い人がそれを識る上に些少でも助けになれば幸であると為すに外ならない。書中のエッセイ類に著者の主張らしい何物も無いことも、もともと私自身識らんとすることに重きを置いたためであつた」。

[参考]: 『言語』: 「本書は、かつて外交官として杭州日本領事館に勤めたことのある小説家小田嶽夫が、一九三七年春に訪れた上海で見聞したことがらを中心として編んだ随想集である。「支那の現実を識る」のに「些少でも助けになれば」とは「序」

にある言葉だが、それは本文中では、「同文同種」という幻想を覆すに至った、中国人の民族精神の変貌といった観点から示されている。／いまは亡き魯迅についても、「僕らの誰が、あの魯迅の砂を噛むがやうな索漠とした鬱憂、苦渋の前に、僕らの不幸を声高に呼び得るであろうか」というように、小田の眼差しは「同文同種」的発想をはねのける。この書の終わりに付録として載った小説「泥河」に登場する、上海で暮らす日本人男女の造型の度合が、如上の中国人たちと比べて皮相に感じられるのは、小田の技量不足という創作技術的な問題には帰せられないかもしれない(大橋毅彦)。

117. 上海港調査 [満鉄国際叢書第五編]

庶務課

昭和12年12月1日

菊判 孔版51頁 表・地図 非売品

[注]:表紙に、「東亜海運株式会社営業企画課」の印あり

◆目次4頁／上海港主要棧橋倉庫所在図1枚
一、上海主要棧橋倉庫一覧表／二、上海港(黄浦江)河面利用設備の種別／三、上海港(黄浦江)河岸所有国籍別／四、上海港雑纂:上海港の範囲、潮流の速度、港内の潮の高さ及レンジ／上海に於ける棧橋倉庫の特徴／棧橋倉庫に関する上海税関規定抜粋／棧橋倉庫と上海揚荷物の特種慣例／C・I・F条件とR・S・D／浮標の数／小蒸気船、艇、小舟及車輛／起重機の種類と数／水先／関税制度及海関の組織／上海港の港政／滬浦局／貨物に対する税金／上海港と其背後地

118. 上海風俗誌

THE LIFE OF SHANGHAI

田中良三

尚美堂(東京)

昭和12年12月改訂再版

四六倍版

[注1]:田中良三は「著作兼印刷発行者」。

[注2]:「発売所」は、華和公司(呉淞路457号)と長澤写真館(呉淞路54号)。

[注3]:定価記載なし。

◆〔上海風俗の簡単な解説〕4頁:緒言／上海婦人／学校と学生／交通機関／運搬機関／茶／街頭の商人／吉凶／窮民／捨子受け所／両替／警備と消防／衛生／公園Ⅱ写真集36葉:上海バンド・上流婦人の散歩／芸妓・中流夫人・女学生の散歩／マーケット帰りのおかみさん・町の女・女の子供・子供を負ふた女／路地内の中学校・男学生・女学生／長屋の生活／労働者相手の食物販売・簡易食堂／折り畳式の書店・竹垣を利用する着物屋・ガラクタ屋／街道の裁縫女・自分の全身を陳列台にして雑多の物を歩く女／郊外農家の女のわらじ売り／見世物小屋・街頭の理髪師・西洋鏡／宣伝上手の歯医者・所謂愛好者の屋外演説会／移動する路傍の百貨店／黄浦江上の各国警備艦・日本陸船隊の観兵式／防弾チョッキ着用の非常巡査・租界外の巡査・安南巡査／騎馬の印度巡査・呉淞路に於ける日本兵／火事場・呉淞路沈家湾消防隊の演習／無軌道電車／二台連結の電車と危険注意・交通巡査・交通信号塔／小車で人を運ぶ・小車で荷物を運ぶ・小車の車体／黄包車(人力車)挽きの顔・荷役する苦力／日支連絡船の入港・税関の検査／漁船・黄浦江の通ひ船・黄浦江面／麻雀で

ばくち・苦力(人夫)は一寸の休みにもばくち・小供等も集まればばくち／茶館の内部・茶湯の行商・茶の接待／質屋・両替屋・酒醬油屋／百貨店大売出の外飾り・普通の小売商店／銀樓の家・衣類のせり売り／虹口マーケット・虹口マーケット花屋の方の入口／喜びの門前の飾り物・花嫁用の駕子／葬式を飾る絹傘・棺・喪主を隠くす白幕張／捨て児受けの引出し・貧に迫つて子供を売る／窮民全家が一小車で移動す・貧民窟／乞食・ゴミ拾ひ・糞嗎頭／阿片を吸う人・阿片吸飲道具／上海大競馬／日本人住宅区／公園(新公園・ゼスフィールド公園)のおもかげ

119. 支那を繞り政治、経済並に宣伝に活躍する上海猶太銘鑑

柳沼七郎

国際政経学会(東京)

昭和12年12月15日限定版

四六倍判 114頁 函版

2円50銭(頒布実価) 函

[注1]: 柳沼七郎は、「著作印刷兼発行人」。

[注2]: (奥付上)「国際政経学会ノ事業ノ梗概」:
「本会ハ猶太問題ニ関スル研究調査、国内並ニ対外連絡及情報報道ヲ会員ニ行フヲ目的トス」。

[注3]: 付箋「御願」:「此の書は、序文にある如く非常の苦心の下に、年月と多額の費用を以て編纂したる貴重なる文献にて現時支那事變の対外策上、猥りに公表致し難き書に候へ共、猶太問題研究の上より重要なる参考書に候間座右に呈し申候／右様の次第、何卒秘密に御保存賜はり他に転貸等絶対に為されざるさま偏に願上候」。

◆ [宇都宮希洋] 序2頁／目次6頁 上海在住猶太人70名の住所・職業・写真 附録其一 英国政府を囲る猶太色彩／附録其二 米国大統領ルーズヴェルトと其の取巻き猶太人達

120. 大上海名所写真帖

多治見 寛

華和公司(吳淞路457号)

昭和12年12月25日

四六横判 函

[注1]: 多治見寛は、「著作兼発行者」。

[注2]: 定価記載なし。

◆ 写真集33葉; 平和塔ヨリ黄浦灘ヲ望ム／大馬路競馬場ヨリパークホテルヲ望ム／上海日本陸戦隊本部／上海南京路／上海ゼスフィールド公園／上海新公園／上海ブロードウェイメンション／北より望む上海バンドの光景／上海黄浦江の船板・上海黄浦江十六浦の帆船／上海サーハリパークス銅像・サスンハウス／上海バンドより日本郵船を望む／無軌道電車・二階バス／ガーデンブリッジより郵船会社支店を望む／上海旧市政府／上海税関・上海徐家匯天主堂／上海神社／上海乍浦路橋畔の風光／上海吳淞路／上海南京路新新公司・永安公司／上海南京路の盛観／上海商業中心地／上海横浜正金銀行／上海四馬路／上海南京路の夜景／上海佛租界霞飛路／午前中の虹口マーケット・東洋一の虹口マーケット／上海日本高等女学校／昭和七年上海事變に於ける海軍戦死者忠魂碑／上海旧城内湖心亭／上海小東門の賑ひ／上海新靴子の外人経営小学校・龍華塔／英国総領事館・上海佛租界大世界／北四川路日本北部小学校・上

海徐家匯の天文台／夏の上海・冬の上海

<1938>

121. 松井翠声の上海案内

松井翠声

栗田書店(東京)

昭和13年1月30日

四六判 147頁 図版 1円

◆口絵：図版8頁／目次3頁Ⅱ 戦火の上海へ乗込んで；出帆序曲／海の荒鷺は芸術家がお好き／上海銃後の女性を訪ふ／我が陸戦隊の活躍／支那の兵隊／見た目は見窄しい日本人街／乗り物／チップの話／電話／映画館の話／競犬／皆さんが上海へいらつしやるには／復興の上海／上海外国新聞記者座談会／Ⅱ「上海ルポルタージュ」製作日誌：(味雅樓酒支店請東東)／上海に着いて／〇〇飛行場／軍工路／トーチカ／上海都市計画／傷病兵／Ⅲ上海案内：Shanghaiといふ字は誘惑・誤麻化しといふ意ですが／バンドという処は／(樂郷嚮導社宣伝)目星しい建物／ハイヤライと競馬／上海の質屋と薬屋／鼻と耳で感ずる上海の町・(HAI-ALAI券)／上海のナイトクラブ／上海の支那人／支那のお葬式／支那食道楽／(仙樂斯嚮導社宣伝)／日常食は／げても支那料理／上海の乞食／支那街の色

[参考]：『言語』

122. 軍事小説 上海陸戦隊

福永恭助

第一書房(東京)

昭和13年3月20日

四六判 378頁 10000部

1円30銭(外地定価1円43銭)

挿画：樺島勝一

◆巻頭言1／目次3-7Ⅱ 上海陸戦隊9(11)
-378

*「巻頭言」：「事変直前の上海を見た作者の憂国的至情はつひに凝つて此の一大雄篇をなさしめた。」

[参考]：『華中』(事変関係362)；「上海特別陸戦隊」『言語』：「本書は愛国的正義感と軍国的英雄意識にあふれた冒険活劇であり、また探偵小説風のスリルに満ちた「軍事小説」である。一九三七年七月の日中前面戦争突入直前の上海を舞台に、海軍陸戦隊の参謀に瓜二つの贗物が出現して反日暴動警戒任務を攪乱する。反蒋抗日派が放ったこの水際立った謀略に対し、一人の陸戦隊二等水兵が探索の命を受け暗黒街の奥深く敵側に潜伏する。ダンスホールに働く水兵の姉の献身的協力で糸口をつかんでみると、内地から流れてきた姉の夫が実は上海の秘密結社による贗札製造団の一味である事実が判明する。／上海の裏社会が暗躍する大掛りな抗日作戦はついに暴かれて、捕われた贗物は日本人、しかも本物の参謀の叔母が産んだ内緒の子であった。「あいつは日本人であって日本人ではないのだ。若いうちから共産党の仲間に入つてゐて、ああした事をするのを俯仰天地に恥ぢない」とされるこの国賊的人物設定にも、この作品の時局的類型色は明瞭である。すべて陸戦隊の将校は立派な人格者であり、兵隊は至純の愛すべき存在として描かれ、事件の解決とそれに続く開戦の緊張とは、読者をして思わず快哉を叫ばずにはおかない(竹

松良明)】。

123. 上海ニ於ケル電気事業調査書

近藤徹・石川長壽

満鉄上海事務所

昭和13年3月20日

菊判 178頁 地図・表

[注1]: 題箋は『上海ニ於ケル電気事業調査報告』。

[注2]: タイプ印刷

◆目次2頁 / [近藤徹・石川長壽] 緒言 / 資料目録3頁 || 第一章 概説; 沿革 / 電力消費状況 / 発電設備ト其ノ運用状況並支那側ノ計画; 上海市各電気会社累年発展状況比較図・上海市累年発電及購電量統計・上海市各電気会社累年収支比較図 / 各事業者ノ関係; 上海電気事業者間電力需給図 / 電気方式 / 電気料金; 電灯料金灯数ノ少イ場合一ヶ月料金グラフ・電灯料金灯数ノ多イ場合一ヶ月料金グラフ・電力料金 / 越界給電問題 / 第二章 各電気業者ノ内容; 租界内ノ電気事業; 上海電力公司累年発展状況図 / 租界外ノ電気事業; 法商電車電燈公司累年発展状況図・電燈需要家数・電燈数・電力需要家数・電動機馬力数・発電量購電量・電燈需要家数・電燈数・電力需要家数・電動機馬力数・電灯需要家数電力需要家数・電動機馬力数・発電量及購電量・電燈需要家数・電力需要家数・電動機馬力数・購電量 / 自家発電 / 第三章 今次事変ニ依ル被害; 閘北水電公司関係 / 華商電気公司関係 / 浦東電気公司関係 || 附図: 上海電気事業要図 (10万分の1) 1葉

* 「緒言」: 「上海ニ於ケル電気事業ノ調査

ハ既ニ我社ニ於テ昭和十年ニ行ツタトコロテアルカ最近ノ状勢ヲ伝フル点ニ於テ欠クル所ナシトセス密カニ他日ノ完成ヲ期シツツアツタ所偶今次事変ノ勃発ヲ見我社ハ在上海軍特務部ノ命ヲ受ケテ倉皇ノ裡ニ一応ノ現状調査ヲ完了シタ。本書ハ其ノ際ノ資料並其ノ後ニ蒐集シ得タ諸資料ヲ参考トシテ編纂シタモノテアル」。

124. 市政概要

上海市大道政府秘書処

昭和13年4月3日再版

152×220 45頁 図版・表 非買品

[注1]: 上海市大道政府秘書処は、「編輯兼発行人」。

[注2]: 「印刷者」は蘆澤民治 (海寧路300号)。

◆口絵: 図版6頁; 市長蘇錫文氏・西村展蔵氏書・上海市大道政府成立宣誓式・市政府仮庁舎・社会局小学校教員講習会・上海南市大道小学校開校式・警察局・訓練中の警察局巡查・財政局・交通局・大道旗を慕つて復帰する民衆・交通局直営の乗合自動車 / 目次1頁 || 第一章 大道政府の成立経過 / 第二章 指導精神 (附宣言文) / 第三章 施政方針 / 第四章 市政府組織大綱 / 第五章 大道旗の解説 / 第六章 市政府行政地域 / 第七章 市政府の組織と幹部人員 / 第八章 施政現状並に近き将来の計画 / 第九章 地方政署の組織並に概要 / 第十章 軍特務部西村班の概要 / 第十一章 結語 || 上海市大道政府警察局組織現勢表1枚 / 上海市大道政府警察局内外部職員官警人数統計表1枚

[参考]:『米澤』:「『上海市大道政府概要』/事変勃発直後, 維新政府の成立以前に生れた上海市の自治機関の概要説明書」。

125. 工部局行政機構の検討

[中通資料第74号]

三宅儀明

中国通信社調査部(四川路215号大楼5楼)

昭和13年4月25日

菊判 107頁

[注1]:三宅儀明は、「編輯発行人」。

[注2]:定価記載なし。

◆はしがき1頁/目次2頁||第一章 序論/第二章 工部局ノ沿革及権限/第三章 工部局ノ行政機構/第四章 行政機構ノ検討:市参事会ト土地章程/工部局ノ腐敗性/最近ノ日本対工部局/第五章 結論||附録:工部局各機構ノ名称12頁

*「緒言」:「今回ノ事変勃発シ上海ノ治安ガ日本ノ手ニ維持セラレテヨリ従来腐敗無内容ヲ曝露シ来レル共同租界工部局行政機構ノ充実, 強化ノタメ我ガ総領事ハ租界行政ニ対スル我ガ参与権ノ拡大ヲ要求セルモ工部局ハ不誠意極ル回答ヲナシ, 今ヤ工部局ノ迷蒙覚醒ノタメ, 日本側ハ飽クマデ英国主宰ノ工部局改革ニ実力ト経済力ヲ背景ニ戦フニ至ツタノdeal。コノ時ニ当リ工部局ノ行政機構ヲ解剖シ之ニ検討ノメスヲ加ヘ諸兄ノ参考ニ供スルタメ本調査部ニ於イテ本資料ヲ編纂シタ所以deal」。

[参考]:『華中』(法制租界問題298)

126. 上海語名詞集

金堂文雄

至誠堂書店(吳淞路海寧路角)

昭和13年5月21日

三六判 463頁 1円50銭

[注1]:著者金堂文雄の住所は、「楊樹浦路1970号」。

[注2]:発行者は, 出光衛。印刷所は, 蘆澤印刷所(海寧路300号)。

◆凡例14頁/目次11頁||普通名詞篇:人事門:身体・疾病・衣服・食物・職業・住居・器具類/地理門:自然・人文/天文門/動物門/植物門/鉱物門/雑事門/数詞門/時令門/位置門/色彩門/形状門/抽象名詞篇/代名詞篇

*「凡例」:「本書は名詞のみを蒐集して三篇十三門に類別し索引に便するため之を組織的に排列せり。惟ふに名詞は一見覚へ易くしてその研究の必要少なきが如き感無きにしも非ずと雖も広範に亘る事々物々の名称を知悉するが如きは至難の業なるのみならず就中抽象名詞に至りては之を究めずんば完全なる意志表示の不可能とせられ居るを見ても語学を知らんとする者の先づ第一に一読すべき必要あることは言を俟たざるなり。/地名建物等の固有名詞はその必要無きが如く思はるるも, 夫れの読方, アクセントの知らざるため不便の著しきものあるに鑑み特に必要と認めたるものを茲に挿入せり。」

◎ 中支の資源と貿易

馬場鍬太郎

実業之日本社 (東京)

昭和13年6月5日

◇再版 (「I-126」) 奥付による。

127. 中支の資源と貿易

馬場鍬太郎

実業之日本社 (東京)

昭和13年6月8日再版

四六版 500頁 図版・地図

2円50銭 函

◆中支七省鉱水産資源明細図1枚／中支七省農林産資源明細図1枚／図版6頁／[馬場鍬太郎]序2頁／目次17頁Ⅱ第一編 圧倒的な中支那の地位／第二編 中部支那の自然界／第三編 活を入れるべき中支の資源章／第四編 住民と都市：第四章 都市の分布 第三節 揚子江下流々域 第三項江蘇地方 五、上海275-289；沿革／背後地／租界／大上海市計画／産業／第五編 低迷する産業へ戦火の洗礼／第六編 列強の角逐と支那の焦燥 (全支を圧する上海の貿易界) Ⅱ附録467-498：第一重要貿易品案内／第二 最近政治経済要報／[村上計二郎]跋499-500

* 「序」：「予は多年上海にありて些か附近の事情に通じ又書院に支名経済を講じて二、三の著述も存す。此の機会に中部支那の経済事情を説述して公責を果すべきに想ひ到るも近来特に学務多端にして其の意を得ず。然るに曩に「北支八省の資源」を出

版し再三、版を重ね好評を博せる実業之日本社に於て、中支開発の一層緊要なる理由を以て予に執筆を囑するや切なり。即ち再び村上計二郎氏に意図を伝へ資料を分ち稿を成さしむ。由来中南支は経済資料に乏しく概括的著述の如きは殆ど皆無の状態なるに、能く之を纏めて全貌を窺知するに足るものとなした。急遽当地に赴任して指導と校閲の一部を残せるも、氏の手腕と赤誠に信頼し敢て小著の名を以て世に送る所以である。」

* 「跋」：「本書は「北支八省の資源」の姉妹編として同じく馬場教頭指導の下に信頼し得べき日支諸国の公私文書に資料を求めるが、特に自然界及住民に関してはクレツシイ、馬場教授、中井、朱博士、野田、石井理学士等の研究及びChinese year bookに依拠し、経済事項に就ては支那政府実業部の諸統計類、中国経済年鑑、海関中外貿易統計年刊、其他上海日本商工会議所金曜会、東京商工会議所、満鉄、日本国際協会等の調査報告に負ふ所多く茲に厚く謝意を表する。尚近く第二次関税改正の議あり又中支の新幣制は北京の中国聯合準備銀行との関係上確定せず、よつて関税、金融両項には触れざることとした。」

◎ 上海漫語

内山完造

改造社 (東京)

昭和13年7月18日

◇7版(「I-130」)奥付による。

128. 上海の嵐—人間の条件—

[大陸文学叢書3]

アンドレ・マルロオ／小松清・新庄嘉章共訳
改造社(東京)

昭和13年7月20日

四六判 474頁 1円30銭

[注]:装丁:三木良

◆目次1頁||第一部～第七部1(5) -
471||あとがき473-474

*「あとがき」:『『上海の嵐』(原名『人間の条件』“La condition humaine”)は一九三三年に出版された。／この作品は、同年度のゴンクール賞を獲得したが、これは決して、題材が支那革命に取られたといふ一種エグゾティスム的に興味を買はれたのではない。勿論、題材的興味も大いにある。即ち一九二七年四月に蒋介石によつて行はれた上海クーデタが背景となつてゐるのである。蒋介石が共産党との提携より、急にこれの弾圧へと間髪的な見事な体かはしによつて覇権を握つたこの上海クーデタは、現代支那革命史上の最も劇的な一瞬であろう。従つてこの作品の持つドキュマン的要素は非常に強い現実性をもつて読者に迫つてくるのである。然しこの作品の本当の価値をなしてゐるものは、そこに登場してくる人物の、余りにも人間の諸条件を負ひ過ぎたパテティックな姿の活写であ

る。或る者は行動に、或る者は阿片に、或る者は性愛にと、それぞれ人間の条件の重圧をのがれようとしてゐる。この、いつ果てるともなく永劫に繰り返される人間の宿命的な悲劇が、ここでは魂の奥底を揺り動かすほどの力強さで描かれてゐる。国際都市上海の、光りと闇の両面に踊り蠢く人間の像は、宿命的な人間悲劇を背負つた人物の標本のやうに思はれる。この作品の裏には、これらの人物の動きにちつと見入つてゐる、ペシミズムの影深い、然し力強い意欲をひそめたあのマルロオの眼が感じられる。／なほ読者諸君の御諒解を乞はなければならぬのは、邦訳に際して、可成りの削除をしなければならなかつたことである。第二部に比較的大量にその他全篇にわたつて少しづつそれを余儀なくされてゐるが、これは切に読者諸君の御寛恕を乞ふ次第である」。

[参考]:『言語』:「本書が刊行されたのは第二次上海事変の翌年のことであり、日本軍の中国侵攻がますます拡大しつゝあつた。作品は、一九二七年二月二日に始まる労働者たちのゼネストの、指導者側の裏面で行われたテロリストの一つの殺人から幕を明ける。この陳というテロリストは、やがて蒋介石の襲撃テロを計画するが、失敗し、拳銃で自決する。／一九三六年一月に出された『中央公論』附録「中央公論年報」の「文芸」欄(杉山平助編)には、『侮蔑の時期』という、ナチスに追われる共産主義者の物語が紹介されているが、ここにも『上海の嵐』の清の描き方との共通性が認められる(真銅正宏)」。

129. 詳註現代上海語

影山 巍

文求堂 (東京)

昭和13年9月5日4刷

四六判 175頁 1円40銭 函

[注1]:「経售処」:内山書店(北四川路底施高塔路)

[注2]:版:昭和11年4月22日初版/昭和11年6月15日再刷/昭和13年1月15日3刷

[注3]:附録の「最近上海市街図」なし。

◆[山田謙吉]序4頁/緒言2頁/凡例2頁/目次6頁||総説/第一篇 基本単語/第二編 要語の用法と用例/第三篇 常用名詞集||附録31頁:上海俗語林/支那料理の作り方とメニューの見方/支那の銭に就て

*山田謙吉「序」:「私は遊滬以来、已に二十余年を経過しましたが、支那学に直接の交渉があるために、支那語の研究には少なからず力を費しました。東亜同文書院に寓居を移して後には、華語萃編の第二巻の如きは、数年の間に三百回読破してゐますが、少しでも研究が進めば進む程、自分に省みて、人の前で大胆に話すことなどは出来なくなる。従つて又第一巻から繰返さねば心がとがめる。一つの名詞の声や、一つの言葉の調でも、自信がなければ話し得ない。此の過程には、私の英語研究時代に比して、まさるとも劣らぬ困難がありました。／顧みますと、大正十四年に影山教授が来院せられました当時、故有つて私は上京中でありましたが、帰院の後、北京の老友の紹介も有り、同教授の篤学なるに感ず

るの余りに、同教授の教を受け、最近には華語萃編の第一巻の名詞集の全部をも学習し、又四書の白話訳をも不明なる発音を質したことでありました。／同教授は、早年より以来、只管、北京語の研鑽に全精力を傾注してゐられたので、支那の風俗習慣童謡俚言歌謡音曲方言隠語等、苟くも支那語に關係有る所有方面の言語に精通してゐられる。のみならず、已に北京語に精通せられたる其の学力を以て、北京語を中心とする北方語は勿論、南北に互りて変化多き言語の変化系統を精査せられ、其れ等の言語は容易に熟達せられるのである。例へば満洲語山東語南京語上海語福建語広東語等の如き、其の変化が井然と条理立てられ、容易に之れに熟達せられるのである。／同教授の南来は、利録の爲めではなかつた。実に南方語の研究に在つたのです。爾来、精確なる研究を積まれた其の結晶の一部が、即ち本書の刊行となつて現はれたのである。／上海には、四十余個国の民俗が雜居してゐるといはれてゐるが、さてそれ等の人々が日常に不便を感じずる所の上海語を学ぶといふときに、此の著述が基本的なものとなることは勿論である。なほその上に、此の重要なる上海語を学ばんとする支那人自身に取りても、従来は扱ふべき良書がなかつたのであるが、今後、其の唯一の基本的なものとして、此の著述に拠るであろうことも予断し得ることである。然る後、此の一卷の著述の真価が、国際關係上、文化關係上、普遍的に中外に確認せられるであ

りませう。／此の一卷の著述は、同教授の研鑽の一部分でありまして、今後、同教授は其の蘊蓄を傾けて、支那語学界の特別な權威者として立たれることが遠くはないと思ふ。同教授は現に広東語の整理に従事してゐられるのである。私は学界の爲めに之れが完成を期待してゐるのであります。／今年夏、私の老友は、北京語研究の爲めに、同教授が、満鉄支那語検定試験に合格の後、更に笈を負ひ、北京同学会語学校に入学せられ、所定の満三個年の全科を修了し、成績拔群の故を以て同校の教務長に推薦せられ、併せて数年の久しき間、支那人の家庭に寄寓し、又、師傅張子鶴氏に就きて支那語に関する各般の書籍を精読し、其の日常生活の實際を体察し、又は日華間の重要案件に関係し、すべて實際の錬磨に努力せられたる同教授の一ふ始終の奮闘史を物語つてくれた。私はそれに対して、同教授が南方語研究の爲めに努力せられたる一ふ始終の奮闘史を物語つたことであります。同教授が初め南来せられた際に、私を同教授に紹介したのは、この老友であつたのです。」

*「緒言」：「是に於て方今漸くにして日本内地に於ても支那語研究者中の一部の者が、上海語に着目し、已にこれをば課程に加へて居る学校さへあるが、さて之が実施に際して差当り困難を感ずる問題は、採用すべき書物の無し或は独習書として、その既習の北京語の力をば、その儘応用して、容易く上海語を会得し得るやうに編輯し、

而して全篇に互り必要と認むる部分は総べて特に北京語と対照して精密なる註釈を附して置いたのである。」

*「凡例」：「本書の編纂に当り、東京外国語学校教授神谷衡平先生、恩師王廷珩先生、碩学山田岳陽〔☆謙吉〕先生、前上海光華大学教授蔣君輝先生、上海法政学院教授江安之先生各位の懇篤なる垂示を賜はりしことを、爰に特筆して深く其の御厚意を謹謝する。」

130. 上海漫語

内山完造

改造社(東京)

昭和13年9月12日7版

四六判 356頁 1円50銭

[注]：版；昭和13年7月18日初版

◆序3頁／目次4頁Ⅱ上海漫語(一-九) 1-106／国共合作への私見／西安的一幕／空襲下の上海を脱れて125-137／詩の対話／魯迅先生と版画140-150／臨終の魯迅先生151-157／魯迅先生の思ひ出話から／丙子漫語／骨董品、骨董屋／当然のことだ／四庫全書の信用／翻訳に就いて／をかしい文字／漢字六分ノ一説／漢学廃止説／房子／コンマを忘れな／三種の貨幣219-224／郵便支局長225-230／上海の票いろいろ231-232／見合の注意／大宴会は安料理で／習慣239-248／子供の世界、大人の世界／双喜／養老院へ凱旋／唯吃論／一石三鳥／恐るべき力の漫行269-

270 / 絶海の孤島と小説 / 神蟲 / 牛肉盗人 / 茶撰り / 蕨と苜蓿 / 西湖夜話 / 黒焼 / 膠考301-306 / 雨の日の下午 / 常識を働かせよ / 生活の向上 / 支那の金融界318-326 / 自省のために / 儒教と革命 / 転向 / 思ひつくまま、あれや、これや / 有限か無限化 352-356

* 「序」:「去年八月上海事変が起ると共に、私は病妻をつれて京都に近い小倉村に非難して来た。 / 各人は今立てるところに於いて今持てるものを採つて働く可きである、と友人の応援を得て、東は東京から岡山まで十数個所に於いて『支那を語る』と云ふ題下に百七十回の漫談講演をして歩いた。 / 何処の漫談講演の時でも、在支二十六年とか二十七年とか云ふて紹介されるので、今更らのやうに上海生活が思ひ出される。 / 成程二十七年と云ふ年月は、私のためには丁度半生であるから、随分永い年月である。 / 然しその二十七年は、実は夢の間に過ぎて終つたのである。 / 而も随分長い年月の二十七年を、若しも専門の知識や学問で支那及び支那人の研究に没頭して居つたら、キット今頃は支那博士の肩書き位は得られたであらうが、残念にも私は小学校さへも満足に卒業もして居らない一介の小売商人であるが故に、たゞ毎日を齷齪として尊い月日を眩うした。それを思ふと今更ら云うても還らぬことだが、何んだか責任を果たし得なかつたやうに思はれて、誠に慙愧に堪へないものがある。 / 然

し極めて僅かではあるが、其間に雑誌『改造』の好意によつて、上海漫語と云ふものを書いた。この漫語はホントの漫語であつて、歴史でもなく地理でもなく紀行文でもなければ無論哲学でもない、何度読み返へして見てもそれは真正銘の私の漫語である」。

[参考]:『中支』(上海 / 社会・統計)

『華中』(雑369):「支那人の習俗、民族性に関する随筆集で、新聞雑誌に発表したものを纏めたもの。」

『言語』

131. 实用速成上海語

影山 巍

文求堂 (東京)

昭和13年10月1日訂正3版

三六判 145頁 地図

1円 (外地定価1円10銭)

[注1]:「発售所」:内山書店 (北四川路底)

[注2]:版:昭和12年10月22日初版 / 昭和13年3月5日訂正版 / 昭和13年6月1日訂正再版

◆ [王廷珏] 序2頁 / 凡例3頁 / 目次10頁 || 第一篇 基本単語; 代名詞 / 日用要語 / 日用命令要語 / 日用来西形容詞 / 数詞 / 方位 / 日用名詞 / 第二編 日用散語例 / 第三篇 实用要語例 || 附録:最近実測大上海全図

* 「序」:「本書は上海語を右から左に実地に役立てたき人の為に、また旅行者等にも直ぐ要領を得られるやうに、徹頭徹尾「实用速成」を主眼として編纂したもので、所

謂机上の語学書ではない。／故に本書内容中の載録した語句例題等は凡て此の目的に叶ふやうに、不必要なるものを避け、必要なものを尽して漏さぬ事に腐心した。／本書の内容を分けて三篇とし、差当り必要な語句は之を第一篇、第二篇中に収めた。之に依つて上海語の大要に通じ、更に組織的に研究されやうとする人は第三篇を見られ度い」。

[参考]:『華中』(言語345):「上海語の独習用並に教科用として広く用ひられてゐる」。

132. 秘密の上海

ジャン・フオートノア／市木亮訳

教材社(東京)

昭和13年11月5日

四六判 224頁 94銭

◆目次4頁Ⅱ第一章 將軍連の国；胡漢民の冒険／ボローチンは企んだ／豹変する馮玉祥／楊宇霆の虐殺／第二章 ウゼーヴとソドミイ；彼は萬屋だ／スポーツ団の顔／老政治家の邸／妓楼とソドミイ／狂暴なる邵將軍／動乱の一日／或る盛宴／邵將軍とソドミスト／誘拐者の王／阿片綺談／俥の中の怪我人／世界一の見事な自殺／第二の事件／坐せる屍体／公然の自殺／邵將軍の最期／ウゼーヴの幸運／共産党事件／第三章 冷たい皿；畢將軍とリズムと弟々／四月十二の夜／午前三時／輝ける畢將軍／アメリカ女は眠る／蒼ざめた夜の後／滅亡の女／ウイルソン嬢の死／紅白龍団の巨魁／衙門の中で／支那を失へるもの／コルト銃／国内戦Ⅱ [市木亮] あとがき223-

224

*「あとがき」:「これは支那の、特に上海の謎と秘密をぶちまけた記録である。著者フオートノアは、この謎と秘密を解かうと努め、寝食を忘れて、上海-モスクワの間を飛びまわつた。胡漢民と語り、馮玉祥と会い、大小の將軍連-本物の將軍や偽物の將軍と深く接触し、また財閥の巨頭と交り、秘密結社を探つた。／多年の間、アヴァスの極東通信員として上海に駐在してゐた著者は、何処にでも自由に出入し、鋭い觀察の眼を光らせた。さうして彼は曇りのない鏡に映る「極東」を捉へようとしたのだが、屢々その茫漠とした謎めかしい姿に呆れ、「東洋は東洋である」との詠嘆を繰返さざるを得なかつたのである。／もともと此の書は物語の形式の中に、その豊富な体験を盛り、「この巨大な國際都市の姿を有るがままに表現したい」と努めたものである。と云つて、それが無味乾燥ナルポインタージュでないことは、著者自身も「紙片の如く生命のない、謂はゆる正確な報告書よりも遥かに真実を語つてゐる」と確信してゐる。この真実を語つて、小説よりも面白いと云ふところに、この特異な物語の生命がある。そして又、一種の芸術的構成の中で、時々支那風な脱線を見せてゐるところに、云ひ知れぬ興味もあるのである。／又、著者はこの書を支那事變の起つた四ヶ月後に脱稿してゐる。従つて、支那事變といふものを意識に置きながら執筆されてゐる

が、その点フランス人としては比較的公正な立場からものを観てゐるやうである。／いつまでも支那を「謎の国」として棄て、置くわけにも行くまい。この謎の奥秘を發く心理的・科学的究明こそ、当面の大きな課題ではあるまいか。－すくなくも、此の書はその謎と秘密を解く鍵をあたへてゐると思はれる」。

[参考]:『華中』(雑24):「著者はアヴアスの極東通信員で支那事変直前の上海の政治的ルポルタージュである」。

II. 上海小冊子 (紀要・報告書等)

<1938>

15. 上海

至誠堂 (呉淞路463)

昭和13年2月10日

折本書簡図絵 20銭

[注]:「発行者」は出光衛。「印刷所」は、日本名所図絵社。

◆上海鳥瞰図／上海；地理沿革／経済状況／人口／気象と位置／上海の市街と行政／観光／上海市街図

III. 上海地図

<1937>

30. 上海戦局全図

『大阪朝日新聞』第20057号附録

昭和12年8月23日

31. 最新上海市街地図

日下伊兵衛

(日下) 和楽路屋 (大阪)

昭和12年8月25日

30銭 袋入

[注1]:日下伊兵衛は、「著作印刷兼発行者」。

[注2]:「袋」:「和楽路屋編集部編纂」。

◆附:中華民国詳細図／裏面:早わかり上海附近鳥瞰図

32. 上海市街図 20000分の1

大日本帝国陸地測量部 (東京)

昭和12年8月製版

98.5×70.5

33. 現勢上海及南京詳図

木村今朝男

六芸社 (東京)

昭和12年9月20日

70銭 袋入

[注1]:木村今朝男 (上海呉淞路益壽里)は、「著作権者」。

[注2]:印刷所は、合資会社金羊社 (東京)。

[注3]:「袋」:「現勢上海・南京詳図:●精細なる国際地図●正確な支那音附 南支那図 ●時局認識の最良図／発行 中華橡皮印刷公司・発売 日本東京六芸社」

◆附:上海及附近図／上海／南京

34. 上海蘇州近傍図 100000分の1

昭和12年9月製版

35. 上海市街及近傍図

菊池啓祐

雄文館(東京)

昭和12年10月1日

[注]: 菊池啓祐は、「著者」。「発行兼印刷者」は、金井直造。

◆裏面: 支那沿岸渡航遮断区域一覽/上海、呉淞附近/広東附近/福州附近/広東/香港/漢口漢陽武昌/南京/上海、南京、連接図/天津北平附近

<1938>

36. 大上海新地図 20000分の1 THE NEW MAP OF SHANGHAI(1938)

杉江房造

上海日本堂書店

昭和13年1月10日訂正3版

60銭 袋入

[注1]: 杉江房造は、「著作兼発行者」。

[注2]: 上海日本堂書店は、「発行所」。発売所は、富山房(東京)。

[注3]: 版: 昭和12年8月25日訂正再版。

◆附: 杭州府/蘇州附近図

[参考]: 復刻図あり。『大上海地図』[日本列島を繞る激動の昭和半世紀の史料⑧](謙光社資料部, 2800円, ケース入)

37. 最新測繪 大上海新地図 40000分の1

木村今朝男

昭和13年8月15日

[注]: 木村今朝男(上海呉淞路益壽里)は、「著作権・発行・印刷者」。

◆附: 中支方面之図

IV. 上海関連本

<1937>

60. 遠西叢考

新村 出

楽浪書院(東京)

昭和12年2月15日

四六判 392頁 図版 2円50銭

◆往古に於ける上海と日本との史的関係 325-334 / 元治元年に於る幕吏の上海視察記335-392

61. 最新 支那大観

佐藤定勝

誠文堂新光社(東京)

昭和12年10月15日

四六倍判 713頁 図版・表・地図 6円

[注]: 佐藤定勝は「編輯者」。

◆23, [馬場欽太郎] 上海464-485; 国際都市上海/上海の説/上海の繁栄/現在の上海/盛なるその貿易/貿易に対する列国勢力/衰退しつつある英国/特色ある行政/共同租界の市政/佛

租界の市政と租界外の政治／上海市外図477／城内(支那町)／城隍廟／龍華／競馬場と静安寺／挿図：南部支那図1枚／愛儷園と半松園／租界の公園／徐家匯教会／四馬路／新世界／紅廟／滬城八景；図版25枚：黄浦江の展望・賑かな海岸通・白渡橋近傍・平和の塔・南京路の支那商店・パレースホテル・夕闇迫る公家花園・南京街の夜景・中国郵政局・梵王渡の公園・東亜同文書院・正金銀行支店・四川路橋・ハリー・パークスの像・龍華の塔・大厦の櫛比・租界を守る(インド人巡査)・無軌道電車・南京路雑観・上海競馬場・湖心亭・徐家匯の塔・四馬路・公家花園・黄浦灘路

62. 支那の中堅を衝く

小松謙堂

白鷗社(東京)

昭和12年11月30日

四六判 350頁 地図 1円50銭 函

◆第三章 中南支方面；第一 上海は国際的港湾225-227／第二 長江の死命をする心臓部227-230／第三 支那の富源を集めし大都市230-234／第四 上海の歴史234-225／第八 上海の邦人分布241-244／第九 開戦前の光景244-247／第十 開戦の第一段248-284

63. 支那叢話 第二輯

入澤達吉

三笠書房(東京)

昭和12年12月25日

四六判 404頁 図版 1円80銭

◆[無平学人] 滬上雑俎134-155

[参考]：→「I-54」

<1938>

64. 興亡の支那を凝視めて

山本實彦

改造社(東京)

昭和13年4月20日

四六版 406頁 2円 函

◆上海通信123-145

65. 経済行脚

石山賢吉

千倉書房(東京)

昭和13年7月16日

四六判 434頁 1円80銭 函

◆経済行脚；上海の感想263-280／上海紀行327-434；飛行機／今後の上海／上海雑感／ボーイ／上海のクリーク／ハイアライ／ギャング／裸一貫／木村君夫婦

66. 中華万華鏡

井上紅梅

改造社(東京)

昭和13年9月20日

四六判 276頁 1円80銭

◆毒物販売業110-124／人質強盗166-182

*「序」：「今度ほど多数の日本人が支那に入込んだことはない、従て日本人の頭脳に

支那が常識化されることは、すでに目前にあるのである。支那には従来甚だ奇異に感ぜられることが多い、しかも大抵闇黒方面である。その光明方面に至ては、我々の祖先が千年以来これを学び尽して、すでに我日本の血となり肉と化してゐるので、これに対して何等の奇異を感ずるものではない。／本書は、支那に対して奇異に感ぜらるゝ方面を多く採つた。従て闇黒面が多い。これは何も支那の醜悪を罵るのではない。要はその真相を觀んとするのである」。

[参考1]: 新装版あり。『中華万華鏡』(うみうし社、1993年2月28日、B6判、343頁、注5頁、2800円、カバー・オビ)

[参考2]: 上記「オビ」: 「<魔都>見聞録／かつて上海にはすべてがあつた……／佐藤春夫に絶賛され、魯迅に酷評されたディレクター、井上紅梅-芥川龍之介も注目した中国雑記-吃賭嫖戯(酒、料理、賭博、小姐、芝居、阿片)を悉く味わい尽くした見聞録」。

[参考3]: 『言語』

67. 東亜先覚荒尾精

小山一郎

東亜同文会(東京)

昭和13年10月25日

菊判 308頁 函版 2円50銭 函

◆日清貿易研究所時代43-110 / 諸名士回顧談; 郡嶋忠次郎先生談301-304 / 井上雅二談304-306

68. 支那研究 北支南支の風物

藤田元春

博多成象堂(東京・大阪)

昭和13年11月10日5版

四六判 475頁 1円70銭

◆第二編 第一章 上海へ; 楊子江53-58 / 上海59-62 / 上海の通貨62-66 / 過去の上海66-79

[参考]: 『中支』(支那一般/紀行)